

2023年度 法科大学院

第2期入学試験問題

4時限

民事訴訟法・刑事訴訟法

(論文式)

試験時間合計 80分

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この問題冊子の1ページから問題が掲載されています。
3. 試験時間中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は手を挙げて監督に知らせてください。
4. 解答用紙には解答欄以外に記入欄がありますので、監督の指示に従ってそれぞれ正しく記入してください。
5. 解答は、必ず解答用紙の解答欄に記入してください。解答用紙の解答欄以外に記入された解答はすべて無効とします。解答用紙の裏面を使用する場合は「裏面に続く」と記載してください。
6. 解答用紙は各1枚しか配布しません。複数枚請求されてもお渡ししません。
7. 貸与した六法以外の参照は一切できません。
8. 試験問題の内容等について質問することはできません。
9. 問題冊子の余白等は適宜使用してかまいませんが、解答用紙の解答欄以外に記入された解答は無効とします。
10. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

[民事訴訟法]

売主Xは、買主Yが死亡していることを知らずに、Yを被告と表示して売買代金の支払を求める訴えを提起したところ、その唯一の相続人であるZがY宛の訴状を受領した。

- 1 第1回口頭弁論期日において、Yが既に死亡していることが判明した場合、裁判所はどのようにするべきかを論じなさい。
- 2 Yの死亡を説明せずに、ZがYの名で訴訟代理人Aを選任して訴訟追行をしたところ、第一審裁判所が請求認容判決を言い渡した。Xへの判決送達後直ちに、Y死亡の事実がX及び裁判所に判明した場合、Xが控訴を提起することが許されるかを論じなさい。

(解答は全て解答用紙に記入すること)

[刑事訴訟法]

Xは、「Aと共謀の上、XがVの首を絞めて、Vを殺害した」との訴因で起訴された。Xは、「Aと共謀の上でVを殺害したことは争わないが、Vの首を絞めたのは自分ではなく、Aである」と主張し、それに関する証拠調べもされた。裁判所は、訴因変更手続を経ることなく、「Xは、Aと共謀の上、X及びAの両名がVの首を絞めて、Vを殺害した」との事実を認定することができるか、下記語句群の語句を全部使用し、関連条文を挙げた上で説明しなさい。

語句群：[共同正犯、実行行為者、不意打ち、被告人の防御、審判対象の画定]